

平成16年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

系群名 太平洋南部系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 15歳(本系群の詳細は不明)
成熟開始年齢: 3歳(1歳で成熟するとの報告もあるが、本系群の詳細は不明)
産卵期・産卵場: 冬～春季(12～5月)
索餌期・索餌場: 不明
食性: ふ化仔魚は動物プランクトン、着底稚魚はアミ類、稚魚以降は魚類
捕食者: 魚類、甲殻類(本系群の詳細は不明)

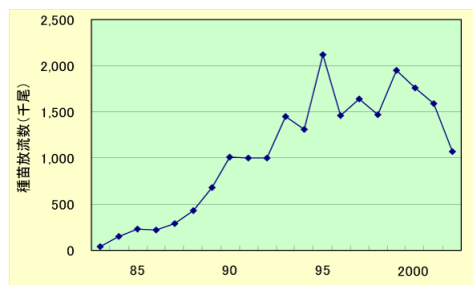
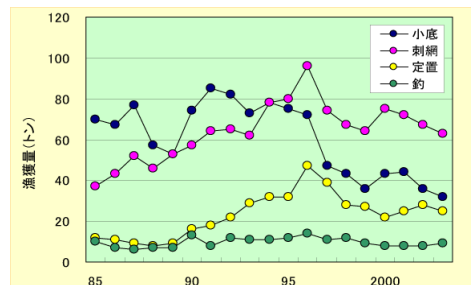
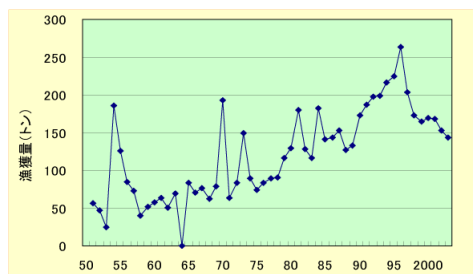


漁業の特徴

和歌山県を東限、鹿児島県大隅半島を西限とする太平洋南部海域でのヒラメ漁業は、漁獲量は少ないが、主に刺網、小型底びき網、定置網、釣等によって行われており、漁獲量はこの順番に多い。漁獲対象は1～2歳魚が主体であり、0歳魚の漁獲もある。種苗放流が積極的に行われている。

漁獲の動向

漁獲量は1951年の57トンから大きく変動しながら緩やかに増加し、近年では1996年に一時的に263トンまで増加して過去最高となった。その後は減少し、1998年以降は170トン前後で横ばい傾向であったが、2002年は153トン、2003年は143トンと減少傾向に転じている。



資源評価法

資源量を推定するために必要な地域集団の分布範囲が特定できないことと、各県における漁業種類別年齢別漁獲尾数等の資料不足等により、現状における資源量推定は不可能である。そこで、漁獲統計および水産試験場資料を用いて漁獲量を集計および解析することで資源評価を行った。

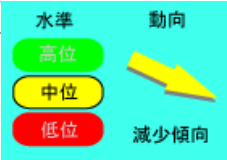
資源状態

ヒラメ太平洋南部系群の漁獲量は、大きな変動を伴いながら推移している。過去30年間における漁獲量の最小値(74トン、1975年)～最大値(263トン、1996年)の幅を三分割すると、2003年の漁獲量(143トン)は中水準に属す。また、30年間の平均値は154トンであり、2003年の漁獲量と大差ないことから、2003年の資源水準は中位であると判断される。資源動向については、2002年以降で主要漁業である小型底びき網および刺網を中心に漁獲量が減少していること、大分県における2001～2003年の年齢別漁獲尾数において0、1歳魚の漁獲量の低下が著しいことを考慮し、減少傾向にあると判断した。

管理方策

ヒラメ太平洋南部系群は中位水準で2000年までは横ばい傾向にあったが、2002年以降2年続けて漁獲量が減少しており、漁獲量水準の低下が懸念される。現在の漁獲水準を引き下げることにより資源の回復を図ることを管理目標とする。漁獲量が減少した直近2年間の平均漁獲量(2002～2003年の148トン)×0.9をABClimitとする。また不確実性に配慮してABCtargetはABClimit×0.8とした。

	2005年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	133トン	0.9Cave2-yr	-	-
ABCtarget	106トン	0.8ABClimit	-	-



資源評価のまとめ

- 漁獲量は1996年に過去最高になるが、1997年には急激に減少し、1998年以降横ばい
- 漁獲量は2002年以降減少
- 資源水準は中位で、減少傾向にある

管理方策のまとめ

- 現在の漁獲水準を引き下げることにより資源の回復を図ることを目標とする
- 若齢魚の保護に関する考慮が必要

資源評価は毎年更新されます。